

分科会こそが大会の華

◆分科会こそが全道大会のメイン

高文連新聞部の全道大会は他の高文連の大会と違って、コンクールがメインではありません。また、高体連や高野連のように勝敗をつける競技でもありません。

新聞の全道大会の目的は、「北海道の新聞を作っている仲間が意見や経験を交流して明日からの新聞作りに役立つ」ことにあります。

たった一枚の手書き新聞でも自分の学校から生み出された言葉を懸命にまとめ上げた紙面。学校の仲間が熱心に読んでくれて、発見したり、考えてくれたり、行動のきっかけになってくれる紙面。それが素晴らしい新聞なのです。

一枚でも自分たちの学校生活を背景にした新聞を作っていれば(いや、作りたいと思っているならば)、作り手(先輩たちは誇りをこめて「高校生新聞編集者」と言っています)一人ひとり学校の違いを超えた同じ高校生新聞を作っている仲間なのです。

北海道の高校生新聞編集者が集う大会では、みんなで意見や経験を交流する分科会こそが「大会の華」、そして「大会のメイン」と言われているのです。その生徒同士の交流重視の姿勢が、高校生新聞王国といわれた北海道の歴史を作り、全国の新聞活動の牽引役を果たし(全国各地そして全国の新聞大会は、歴史上もっとも早く形成された北海道の大会の影響を受けています)、そして心ある人々から高く評価されているのです。

◆活動内容は一人ひとり違っても、みんな新聞作りの仲間です

全道大会までにたった一枚しか新聞を発行したことがない、という学校の皆さん。自分たちは立派な活動をしていないから、と遠慮する必要はまったくありません。自分たちの意見をしっかり話して、みんなの言葉に耳を傾け、そして活発な学校から謙虚に学んでください。

全道大会までにブランケット、タブロイド、そして、パソコン・手書き新聞をどんどん発行している皆さん。そのエネルギーをたくさん学校の皆さんに伝えてください。新聞にかける思いを語ってください。ノウハウを教えてください。みんなでより高いレベルの活動を目指しましょう。活動は今ひとつ、という学校が地元に戻った後、突然すごい新聞がどんどん出せるようになるくらいの刺激を与えてください。そして逆に、経験の少ない学校の局員の言葉にも耳を傾けてください。活動のヒントが意外にたくさんあるのです。ぜひ、たくさん発見を手にとってください。

みんな、仲間なのです。思いっきり全道大会で新聞作りにかける思いをぶつけ合い、お互いに元気をもらって、明日からの活動につなげてください。

かつて、まったく新聞を作ったことがなく他人に誘われて入局した生徒が、しゅしゅ全道大会に参加し、活発な活動をしている学校の局員の言葉に感動し、学校に戻ってから局長になり、発行が停滞していた新聞を月刊で復活させたことがありました。

議論が白熱して、分科会の時間ではおさまらず、宿舎に帰ってから話し合っていた局員たちもいました。分科会がきっかけで一生の友だちを得た人もいます。いつも同じ高校が白熱した議論を繰り広げ、毎年、全道大会の名物となっていた分科会もありました。

こうした先輩たちの情熱が築き上げた分科会が、みなさんの活動を支える伝統として引き継がれているのです。頑張りましょう。オホーツク支部はこの分科会が実りあるものになるように精いっぱい運営をいたします。